

解離性大動脈瘤



解離性大動脈瘤とは？

大動脈の内膜が裂けて血液が入り込み、壁が剥がれる重篤な疾患です。突然の激しい痛みを伴います。

生活習慣病が悪い状態が続くと、大動脈に負担がかかり、大動脈瘤ができたり、動脈解離を引き起こす可能性があります。

特に症状がない時から血管はダメージを受けていて、突然、血管解離を発症し、命を失うこともあります。

主な症状

- ・ 胸や背中 of 激痛
- ・ 血圧差
- ・ 失神
- ・ 呼吸困難など



原因

- ・ **高血圧**（最大のリスク因子）
- ・ 動脈瘤
- ・ 喫煙
- ・ 遺伝性疾患（Marfan症候群、家族性）など

検査

普段から健康診断を受けることで、生活習慣の改善が必要です。
必要により、血液検査や画像検査などを行うことによってリスク管理をすることができます。

治療について

早期治療が命を左右します。

治療方法は、血管の裂け方で異なります。

急性期治療は

- ・ **安静** ・ **内服治療** ・ **外科治療** を行います。

慢性期に

- ・ **外科治療** ・ **カテーテル治療** を追加することもあります。

1) 令和5年人口動態統計（鹿児島県）

鹿児島県における解離性大動脈瘤発症による死亡率は全国平均よりも高いです¹⁾。



©鹿児島県ぐりぶー#1043

脳卒中・心臓病等総合支援センターおよび脳卒中・心臓病等相談支援窓口では脳卒中や心臓病についてのお悩みの相談に乗っています。
お気軽にお越しいただくか、メール、電話などでお問い合わせいただけましたら幸いです。

e-mail: sc-shien@kufm.kagoshima-u.ac.jp 電話番号：099-275-6895